

## 平成30年度座談会「町長と語ろうまちづくり」(高齢者いきいきセンター)

開催日時	平成30年10月17日(水)午後7時から午後9時	天気 曇り
場所	高齢者いきいきセンター	
町民参加者	男16人 女3人 (60代以上19人)	
町出席者	町長、教育長、参事兼企画政策課長、総務防災課長、福祉課長、環境課長、 商工観光課長、定住対策課長、事務局2人	

### 出席者から出た主な意見や提案

#### 《テーマ：防災対策について》

- 冬の夜中に災害が起こることもありえる。お年寄りや身体の不自由な方もいるので、一時避難場所に避難してからその後川村小学校まで避難するのは大変である。一時避難場所をいきいきセンターとした場合、鍵を開けたりするのは自治会がやるのか。
- 防災ハンドブックについて、非常備蓄品と非常持出品とある。水や食料は非常備蓄品として家に備蓄しておくものと皆さん知っていると思う。ハザードマップには非常持出品として3日分の水と食料を持っていくとなっている。その分量を持って避難するのは難しいと思う。非常備蓄品と非常持出品の表記があいまいである。
- ハザードマップは、雨の時はどれぐらいの雨量を想定しているのか。また、地震の時はどれぐらいの震度を想定しているのか。
- 町HPにこの地域で心配される地震というものがあり、この地域では震度5強～7程度が想定されるとなっている。しかし、防災訓練は震度5強想定として訓練しているが緊張感がない。震度5強ではほとんど建物は崩れない。町としてどう想定しているのか。震度6強程度だと役場に連絡する手段がなくなると思う。職員一人でもいいので各連合ごとに担当をつけて、防災訓練の時にも参加し、災害が起きた時の状況で町に連絡するような方法をとってもらいたい。
- 今年の防災訓練で放水訓練を行った。震度5以上ぐらいになると配水池の遮断弁が閉まると聞いた。消火栓で延焼を止めることができるかと思って訓練を行ったが、2、3箇所同時に放水すると水圧がなくなるとも聞いた。震度何で遮断弁が閉まるのか。
- 各自治会には防災組織があるが、1、2年でメンバーが変更になる。南原自治会でも専任者を置いたが、なかなか継承することができない。本当に役に立つ組織づくりを我々もやらないといけないが、町と一緒に組織づくりを行っていききたい。

○色々な組織や人がいるが、組織を横断的に行うところまで行っていない。担当者のボランティアを募ったとして手を挙げてくれる人がいるかは疑問である。色々な経験をした人がいると思うので、そういう組織を作って動けるようにしておいた方が良い。

○大震災が来た時には電気が復旧した時に漏電等で火事の危険性がある。災害用備蓄品を町の方でバックアップをしてもらいたい。備蓄品について企業等と提携しているかもしれないが、住民にオープンにしてもらいたい。

要支援者を支援するのは一時避難場所までを支援することとなっている。その先はその場にいる人達に任せるといふ他力本願的な部分があるが、支援者が誰だか言えないので支援できない。全体にオープンにしろとは言わないがせめて隣組ぐらいには伝えてもらいたい。

○防災無線を改善したとの話があったが、聞き取りにくい。以前は聞き取りやすかった。モニターの人を配置して調べてもらいたい。

#### 《テーマ：その他》

○小田原百貨店が出来て非常に便利になったが、車を持っていない人はバスを利用しないといけない。配達をしてもらうことはできないのか。

○先日近所の方がスズメバチに刺されて救急車で運ばれた。巣があるみたいだということで貼紙だけでもと考えると町に連絡をしたらすぐに町で対応してもらえた。森林組合に依頼し駆除してもらえ、またガードレールや電柱はまずいということでカラーコーンに貼紙を貼ってくれた。ありがとうございました。

○土砂災害だけでなく水害のハザードマップについても併せて説明してもらえればと思う。